

アートプロジェクト

変わりゆくちばを形にする

このプロジェクトは、千葉市民を対象にしたワークショップを通して、市内で過ごす日常の中にある「変わりゆく（エフェメラル）なもの」を土で形に残し、焼き締め（野焼き）によって作品化し展示する取り組みである。参加者と街を歩きながら、風景や記憶に残したいものを粘土で拓本のように記録し、最終的にインスタレーションとして発表する。素材には地域の粘土を使用し、手を動かす体験から自然とのつながりを感じ、自分や他者、環境へのケアの意識を育てる。展示では、地域文化や記憶を未来に伝えるメッセージとし、千葉開府900年という節目にあわせて、過去と未来の視点から現在の暮らしを見つめ直す。市民同士の協働による作品制作を通じて、地域のつながりを生み、孤立感の緩和や文化的な誇りの醸成にもつなげることを目指す。展示場所は千葉市内の遊休空間を予定し、プロジェクト期間は2025年7月から12月まで。ワークショップは全3回、各回15人程度の参加を想定している。



撮影 横山渚 / 企画 Primipedites

市民参加のかたち：ワークショップ・展示鑑賞

諏訪部 佐代子

1995年千葉県生まれ。2019年東京藝術大学美術学部油画専攻卒業、2023年同大学院グローバルアートプラクティス修士課程修了。卒業制作展2017で「サロン・ド・プランタン賞」、修士卒業制作展2022で「GAP賞」を受賞。インスタレーション作品を中心に、パフォーマンスや彫刻など幅広いメディアで制作を行う。2025年現在、同大学博士課程に在籍しながらアーティストコレクティブ「実践考古学」[Primipedites] [NULLNULL STUDIO] のメンバーとしても活動する。

作品制作のプロセスは、対話と関わりを重視している。市民の皆さんとのコミュニケーションを通じて得られる視点や、土地の記憶を感じ取る体験がインスピレーションの源である。石や土といった自然素材を用い、この場所ならではの表現を追求し、地域に新たな視点や価値を提供することを目指す。千葉市で培った経験を基盤に、この場所で創作活動を行い、過去を振り返るだけでなく、未来に向けた千葉の可能性を探る挑戦でもある。千葉市がかつて私を支えてくれたように、土地と人々とのつながりを深め、アートを通じて新たな物語を紡いでいきたいと考えている。